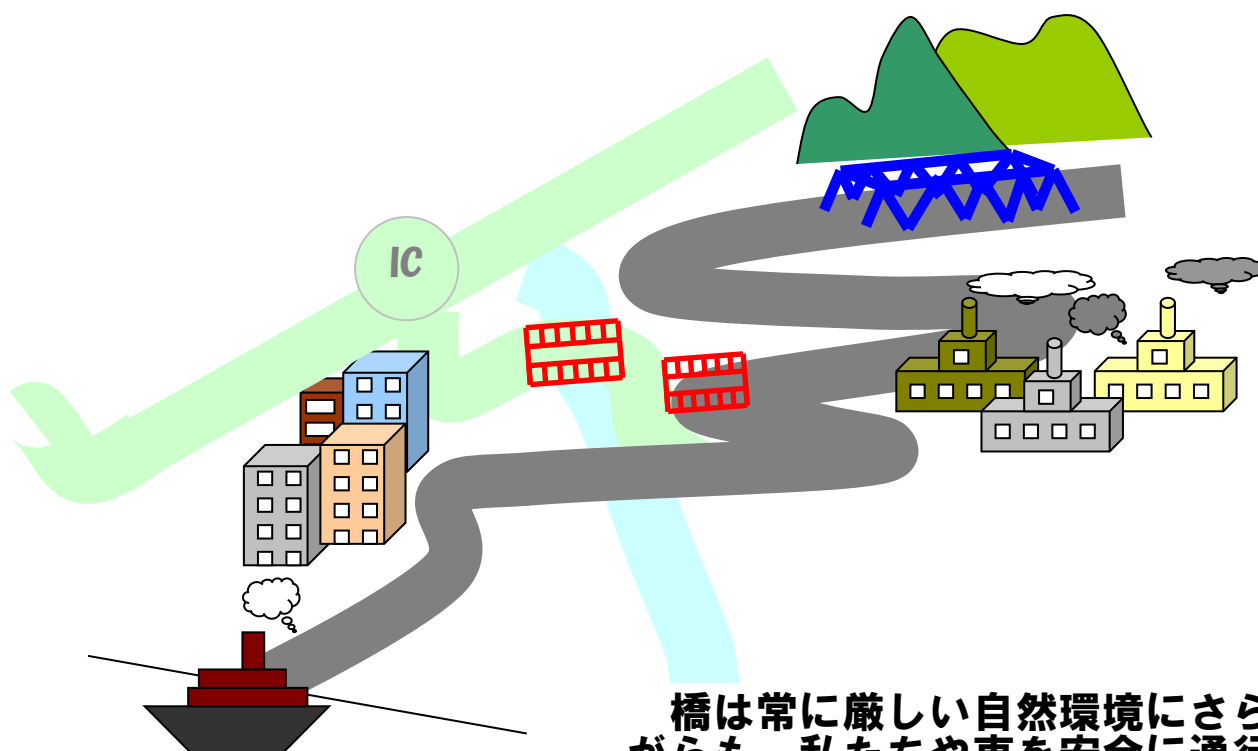


燕市橋梁長寿命化修繕計画

燕 市

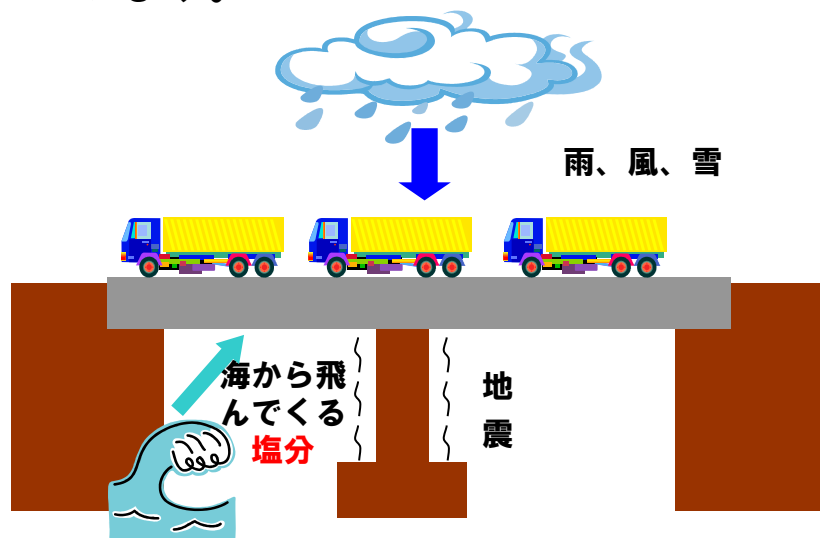
橋とは

橋は市民のみなさんの日常生活や災害の際の避難に不可欠な道路を担う重要な施設です。



橋は常に厳しい自然環境にさらされながらも、私たちや車を安全に通行させています。

橋も人と同じように歳をとり、疲れや病気が生じやすくなります。

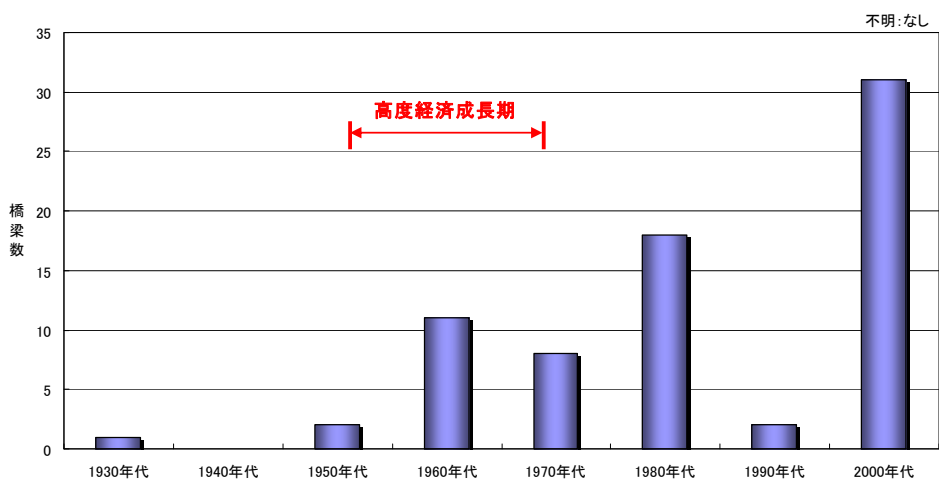


燕市の橋にもいずれ高齢化社会が訪れる

燕市は約609橋を管理しています。2000年代に架けられた新しい橋が多い一方、古い橋も多く存在します。現在架設後50年以上経過した橋梁は4%ですが、20年後には36%と、徐々に高齢化が進行し、傷みやすい橋が多くなっていきます。

橋の寿命は50年が目安といわれ、健康診断や治療が急がれます。

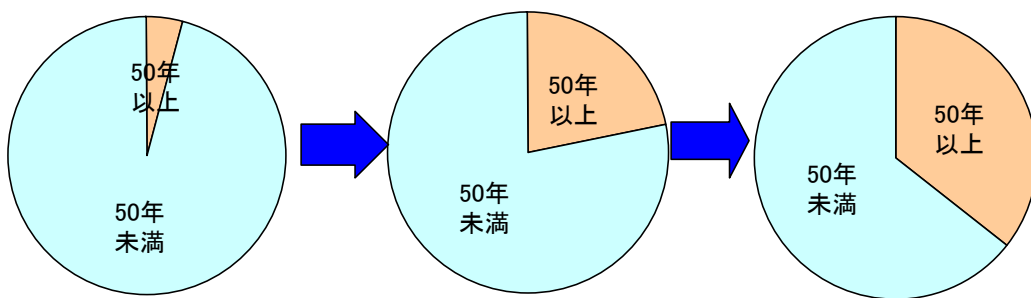
架設年別橋梁数



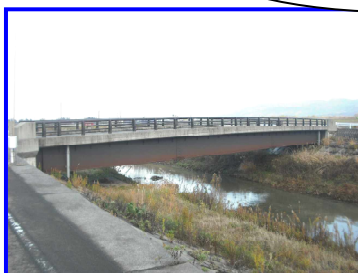
【平成23年度】

【平成33年度】

【平成43年度】



放っておくと・・・



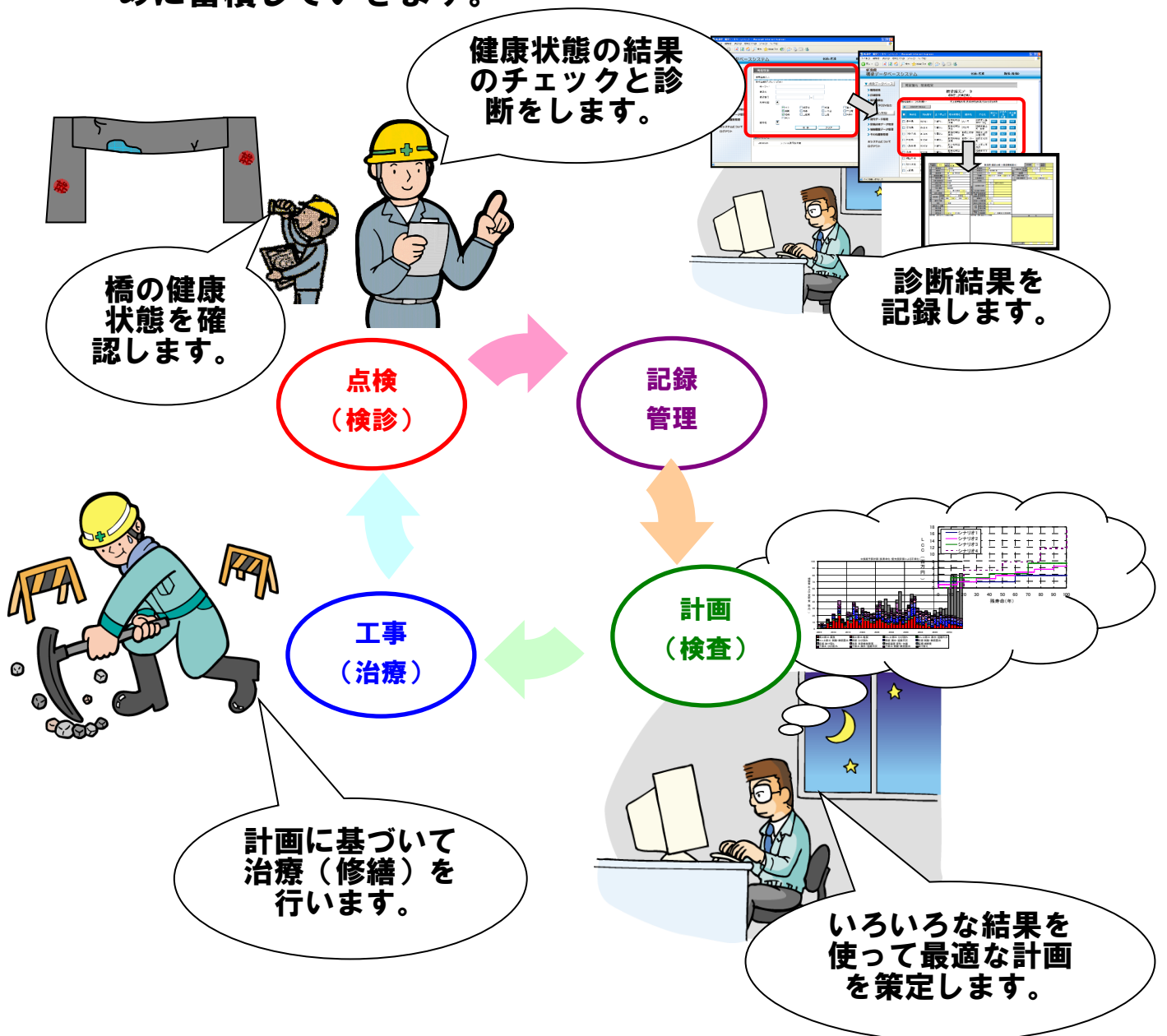
橋を安全に長持ちさせるための取り組み

健康診断と計画的な治療を

高齢化する橋梁が増加していく中、放っておくと一斉に悪くなるのが心配されます。多くの治療費（修繕費）をいっぺんには払えないことは容易に想像できます。

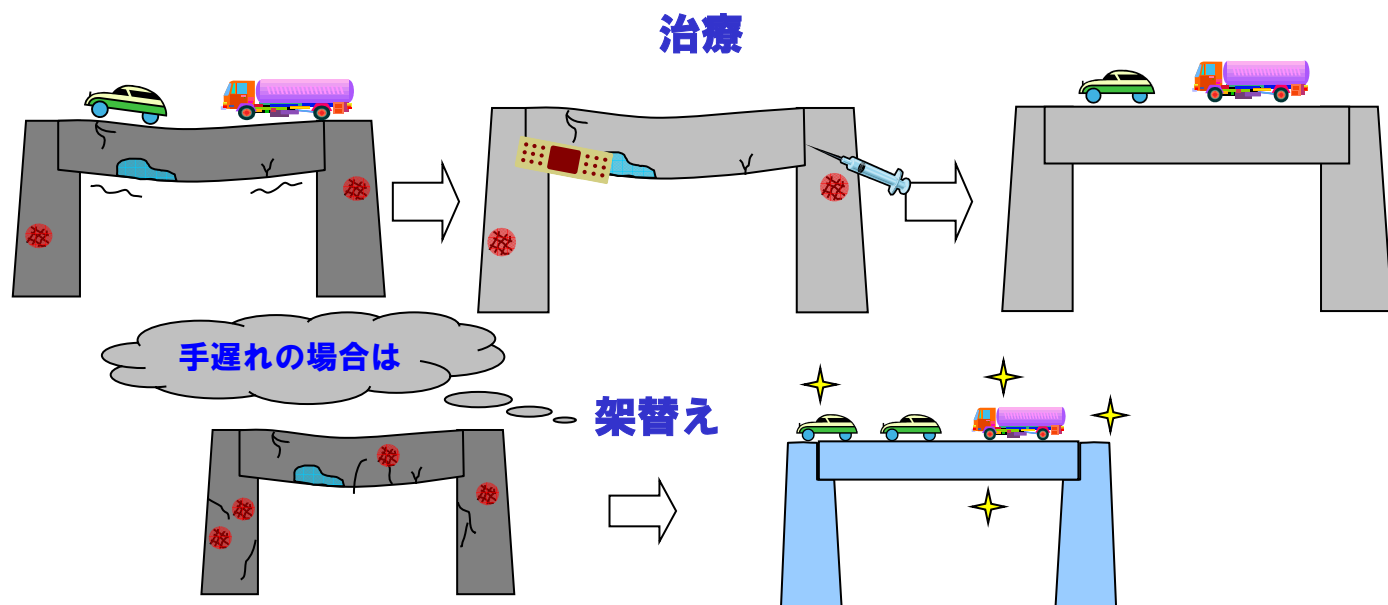
橋の健康診断（点検）を実施していき、診断結果をもとに計画的な治療（修繕）を行うことが必要です。

大切な診断カルテ（点検データ）は今後も有効に活用するために蓄積していきます。



すでに病気になっている橋は適時適切に治療します

健康診断(点検)で病気になっている(傷んでいる)とわかった橋は適時・適切に治療していきます。



病気が進行する前に予防対策を行います

予算の状況に応じて重要な橋から随時、予防対策を行っていきます。予防対策を行うことで、病気の進行を防ぎ、費用の削減が期待できます。

橋も人間と同じように、症状が軽い段階で対応すると治療費が安くすみます。



計画を支える仕組みづくり

長寿命化の取組みの継続

橋梁の長寿命化への取組みは継続して行っています。経験豊富なベテラン職員が講師となり、勉強会や現場での講習会などを行い、ますます大切になる維持管理に携わる職員の育成や技術力向上に取組みます。



現場見学会、講習会の開催



橋を適切に管理するために、さまざまなことに取り組んでいます。



計画は下記の有識者からの助言をもとに策定しました。

長岡技術科学大学

丸山 久一 教授

長岡技術科学大学

長井 正嗣 教授

新潟大学

佐伯 竜彦 准教授

担当部署：燕市 都市整備部 土木課 TLE 0256-92-1111